



錦城高校新聞
題字 井口 文章
再刊 第358号
印刷・発行 錦城高等学校新聞委員会
編集室 2021

みんなでつくる 錦城高校新聞

一面：GWに活躍した部活と行事のこれからを取材！
二面：新型コロナが錦城にもたらした影響を年表と共に絡まどめ！

勝利の信念と情熱

春から快調の4部活を取材

新型コロナウイルスの脅威にも負けず、大会で躍進を続けている部活動がある。今号では将棋部、バドミントン部、ソフトボール部、陸上部を紹介する。

将棋部 全国へ駒を進める

5月3日(月)に行われた全京地区予選の女子個人戦において、小沼紗弥さん(2F)と平澤響さん(2M)が全国大会への出場を決めた。



将棋部とバドミントン部の普段の練習風景の様子
ソフトボール部は試合当日のミーティング、陸上部は表彰されている場面

バドミントン部 関東への切符を掴む

5月3日(月)にバドミントンの春季関東予選が開催され、錦城高校からは13人の選手が出場した。



「練習できることに感謝しています」

ソフトボール部 都ベスト4を目指して

5月2日(日)、3日(月)に行われた令和3年度春季大会兼第71回関東大会予選においてソフトボール部がベスト8の成績を収めた。

陸上部 都大会に出場

5月15日(土)、16日(日)と18日(土)、19日(日)にかけて行われた第74回東京都高等学校総合体育大会で、陸上部が好成績を残している。

今年ならではの錦城祭に向けて

今年の錦城祭のスローガンは「青春煌煌」。錦城祭という舞台で一人ひとりが主役になって光り輝こう、青春しよう！という思いが込められている。「煌煌」は、きらきらと光り輝く、明るく照らし輝くさまという意味があり、「高校」と音を掛けているのだ。



「みんなで楽しい錦城祭を創りましょう！」

今年ならではの錦城祭に向けて、実行委員会によるこのテーマにあった要素を各企画に入れてほしいのだ。実施については、例年と異なる制約の多い錦城祭になる予定だ。実行委員会で楽しい錦城祭になるようにと、皆さんの案を募集している。楽しみにしている下さ。一緒に楽しい思い出の残る錦城祭を作りましょう。青春しましょう！と笑顔で錦城生にメッセージを送った。

室内楽部

6月19日(土)にルネこだいらホールで室内楽部が演奏会を行います。3年生最後の定期演奏会なのでぜひ来てください！(開場：18時 開演：18時30分)



吹奏楽部 定期演奏会

6月20日(日)にルネこだいらで吹奏楽部が定期演奏会を開催します。1～3年生全員が揃って演奏する最後の機会です。部員にチケットを貰って、ぜひお越しください！(開場：13時15分 開演：14時)

58回生新たな取り組み

今年度、58回生に「スタディアプリ English」が導入された。これは、スマートフォンやタブレット端末等にダウンロードして利用するアプリで、生徒は学校外での英語の勉強に自由に活用することができ、定期的な先生からの「デイリースタディ」が配信され、授業ではその内容に基づいた確認テストが行われる。導入は今年度限定だが、取り組み次第で来年度も継続する可能性があるという。

引退に向け仲良く最後までやります
女子や男子が、引退に向けて練習を始めた。練習の日々を二人は振り返り、「最終的には気合と根性が大切だと思いました」と口を揃えた。

むらさき草

あなたはこれまで一回も交通ルールを破ったことがないと言えようか。最近、イヤホンやヘッドホンをつけている人がよく見られる。以前から警視庁の啓発ポスターが街中に貼られてはいるが、イヤホンやヘッドホンの使用だけでなく、様々な交通マナーが問題になってきている。実際に2019年の10月、兵庫県の女子高校生が交差点で交通事故を起こしたとして過失傷害の疑いで書類送検された。その女子高校生は信号のない交差点で携帯電話を見ながら自転車で、70代の男性をはねた。原因は前方不注意によるものだった。このケースでは刑法上、5年以下の懲役または100万円以下の罰金が課せられる。昨年自転車での最初の錦城への登校日の朝に、自宅近くで出会い頭に車と衝突した。命に別状はなかったが、右膝には傷が残ってしまった。このように、十分に注意を払っていても事故にあうこともある。何かをしなげら運転をすればなおさらだ。最近も先ほど挙げた例と似たような事故が、ネットニュースにも度々取り上げられている。そのうえ、多くの賠償金を請求されるという例がいくつもあつた。高校生が加害者になるにせよ、被害者になるにせよ、こうした事故は確実に社会問題となりつつある。このニュースを聞いた時、自分も加害者になりうるのだと思うと背筋がゾッとした。交通ルールを破った人間が、高額な賠償金を請求されるのは当然だという意見もあるだろうが、誰も一歩間違えば加害者になってしまうという危険が様々な場面で存在する。また、自分が過去に事故にあつてしまったがゆえに、被害者側の痛みや怒りなどの気持ちもよくわかる。どんな形であれ、自分が加害者にならないように、日頃からより一層気を付けていこうと思った。

吹奏楽部 定期演奏会
6月20日(日)にルネこだいらで吹奏楽部が定期演奏会を開催します。1～3年生全員が揃って演奏する最後の機会です。部員にチケットを貰って、ぜひお越しください！(開場：13時15分 開演：14時)

新聞で迎えるコロナ禍の錦城

錦城生の声を特集

新型コロナウイルスは終息の気配を見せず、現在も学校生活に影響を与えている。4月25日(日)から3度目の緊急事態宣言が発令されたことを受け、昨年度から続くコロナ禍と錦城の歴史をたどった。(編集部共同取材)

中止重なる1年に

吹奏楽部は、定期演奏会や卒業式・入学式での演奏などが中止となった。部長の安井瞳さん(3F)は、昨年の定期演奏会中止を振り返り「代替わりの時期にコロナが流行してしまったので、先輩から100%教わりきることができませんでした」と語る。部活動再開後は、消毒やマスクの着用を部員同士で協力しながら行い、感染防止に努めているようだ。「みんなが率先して動いてくれて嬉しかったです」と安井さん。

また、今年は6月に行われる定期演奏会に向け「コロナ禍でも開催できることに感謝して、演奏したいです」と話した。

コロナ禍でも知恵を絞って練習を

部活動に制限がかかっていた期間、サッカー部は感染対策を講じながら集まっていた練習や、各々個人練習をするなど、4月のインターハイに向けて調整を行っていたという。部長の関直哉さん(3H)は「みんなでサッカーをする機会が減るのはきつかったです。しかし、部活ができる喜びや仲間とサッカーできる嬉しさなどを再び実感できたのは良かったと思います」と話す。

現在はインターハイ予選での敗退を受け、ほとんどの3年生が引退してしまったという。「悲しさや悔しさでいっぱいですが、残った3年生や頼れる後輩たちと一緒にサッカーができる幸せを噛み締めてこれからも頑張っていきたいです」と関さん。コロナに負けることなく、サッカー部は邁進していく。

感染対策のため活動場所を変更

将棋部部長の邑橋奏多さん(3H)はコロナ禍の活動について「部室が狭く密になるため、普通教室を借りて活動することにし、部員同士が距離をとれるような環境づくりをしました」と語る。様々な制限がある部活のさびしさや、以前の不自由な活動と現状の乖離から満足いく活動ができなく悔しさを感じることもあったそうだ。また部長としての思いを「1年生で全国大会や関東大会が中止になった後輩達の気持ちを考えると本当に悲しかったです」と話す。

邑橋さんは「最後の大会に向けて、限られた時間の中で熱心に部活に取り組みたいです」と今後の活動を語った。

まだまだ対策抜かりなく

コロナ禍でのこの1年について使用するスペースを区切って、養護の横田舞子先生に振り返ってもらった。

横田先生によると、導入した感染予防対策としては、検温器・アルコールの設置、体調管理表の導入や、換気の徹底、三密を避けるための健康診断の実施、手洗いの場を蛇口を変えたり、多岐にわたる。保健室内でも、怪我をした人と体調が悪い人、先生に相談事がある人より注力しているそうだ。

錦城生の様子について横田先生は「たくさんの方が協力してくれて感謝しています」と話す。「変更も出てきているので今後も気を緩めずに、日々一人一人が自覚を持って行動してくれたらと切に願っています」と錦城生にメッセージを送った。(燕)

錦城での動き	日付	社会情勢
～2020年～		
	1月6日	中国 武漢で原因不明肺炎 厚労省が注意喚起
	1月14日	WHO 新型コロナウイルスを確認
	1月15日	日本国内で初めて感染確認
	2月13日	日本国内で初めて感染者死亡
	2月27日	安倍首相 全国すべての小中高校に臨時休校要請の考え公表
臨時休校 3月23日まで	3月2日	
第55回卒業式 規模を縮小	3月18日	
	3月24日	東京オリンピック・パラリンピック 1年程度延期に
臨時休校 4月6日まで延長	3月25日	
第58回入学式 規模を縮小	4月7日	7都府県に緊急事態宣言「人の接触最低7割極力8割削減を」
臨時休校 5月6日まで延長	4月8日	
58回生宿泊研修、57回生校外学習など休校期間中の行事が全て中止または延期に	4月16日	緊急事態宣言 全国に拡大 13都府県は「特定警戒都道府県」に
	5月4日	緊急事態宣言 5月31日まで延長
5月30日まで臨時休校期間延長	5月7日	
	5月14日	緊急事態宣言 39県で解除 8都府県は継続
	5月20日	夏の全国高校野球中止決定
	5月21日	緊急事態宣言 関西は解除 首都圏と北海道は継続
	5月25日	緊急事態宣言解除 約1ヶ月半ぶりに全国で解除
登校準備期間 6月6日まで	6月1日	初の「東京アラート」 都民に警戒呼びかけ
3年生始業式	6月2日	
2年生始業式	6月3日	
1年生登校日	6月8日	
分散登校～6月22日まで	6月8日	
部活動再開	6月23日	
部活動停止 8月7日まで	7月22日	
部活動停止 9月30日まで	8月5日	
但し、大会・公的発表のある部活動は限定的に活動可	8月15日	
夏休み開始 8月23日まで	8月25日	この間にも日本国内の感染者数は増加し、大規模クラスターも多発。病床も逼迫し医療現場に大きな打撃を与えた。
臨時休校期間の影響により例年比へ期間が約1ヶ月短縮	8月25日	
秋季球技大会・錦城祭中止決定	9月24日	
3年生学年レクリエーション	9月25日	
2年生学年レクリエーション	9月26日	
1年生学年レクリエーション	9月28日	
ミニフェス1日目	9月28日	
ミニフェス2日目	9月29日	
57回生修学旅行 行き先が蔵王から関西方面に変更	10月14日	
合唱祭中止決定	10月下旬	
生徒会選挙 放送での実施	11月3日	
オンライン錦城祭 12月15日まで	11月25日	
学校閉鎖 12月18日まで	12月16日	
	12月26日	国内で変異ウイルス初確認
～2021年～		
部活動停止	1月7日	1都3県に2回目の緊急事態宣言
57回生修学旅行中止決定	1月8日	
	1月13日	緊急事態宣言 11都道府県に拡大
	2月1日	緊急事態宣言 10都道府県は来月7日まで延長 栃木県は解除 ワクチン先行摂取始まる 医療従事者約4万人対象
	2月17日	緊急事態宣言 首都圏を除く6府県で解除
	2月28日	1都3県の緊急事態宣言 2週間程度延長
第56回卒業式 規模を縮小	3月18日	
	3月21日	緊急事態宣言 1都3県で解除 約2ヶ月半ぶりに全国で解除
部活動再開	3月22日	
第59回入学式 体育館で実施 保護者と一部の来賓も参加	4月5日	大阪、兵庫、宮城にまん延防止等重点措置 5月5日まで
始業式 放送で実施	4月7日	大阪府 医療非常事態宣言
59回生宿泊研修中止	4月8日	
58回生校外学習中止	4月8日	
新入生歓迎会 発表する生徒の人数を制限、動画による紹介も	4月9日	
	4月12日	3都府県にまん延防止等重点措置 京都・沖縄は5月5日まで 東京は5月11日まで 高齢者向けワクチン接種始まる
59回生運動会 宿泊研修の代替	4月16日	
	4月20日	神奈川、埼玉、千葉、愛知にまん延防止等重点措置 5月11日まで
	4月25日	東京、大阪、兵庫、京都に3回目の緊急事態宣言 5月11日まで
	5月12日	緊急事態宣言 愛知、福岡を追加し 5月31日まで延長 まん延防止等重点措置 北海道、岐阜、三重を追加し 5月31日まで延長 宮城は解除

コロナ禍で変わる授業

生徒の考え拾う

新型コロナウイルスの影響でグループディスカッションなどとして進んでいってしまいがちな現代文の授業「先生は、本来なら国語科の太田剛先生は「生徒は年に4回行っていた調理実習がどんなことを考えているか拾いづらくなったのが痛かったです」と語る。マスクをしていて細かな表情の変化が分からないため、教室の空気が固まっているように感じるといいます。太田先生は「プリントにコメントを書いてもらう形式も考えましたが、話し合うことの代わりにはなりません」と話す。現在は、受動的な形式の授業でも最大限を教えることができるよう、スピードと量を意識しているそうだ。

「ステイホームで外食ができないからこそ、自分たちの生活に目が向かったと思います。おうちの方に頼ってばかりではなく、自主的に考えてほしいです」と2人は話した。家庭科室前に調理実習の代わりに行った絵本作成の先生と若本恵子先生に話を聞いた。「授業中はマスクをして見に行ってみよう。(卵・紅

コロナ禍で工夫が施された錦城の設備

毎日の検温を徹底

食堂のパネルは透明に

ペダル付きの消毒液も登場!

クラスで団結できる機会

球技大会の代替行事として、学年別のレクリエーションが昨年9月24、26日の3日間にかけて行われた。3年生は1日目、2年生は2日目、1年生は3日目と日を分けて行い、感染リスクを軽減。当日の会場内でも感染対策は徹底して行われた。3年生は球技大会を、2年生は悪天候により実施場所をグラウンドから体育館に変更し、運動会を実施。また、1年生は体育館にて運動会を実施した。

福士誠吾さん(2M)は「行事が次々と中止になっていく中、代替え行事が期



錦城祭に代わる初の試み

昨年8月25日(火)に錦城祭中止が発せられたが、代替行事として「ミニフェス(Mini Fes)」の開催が9月4日(金)に発表された。「コロナ禍での新しい生活様式」と「新しい形式の行事をつくらう」という2つの意味が込められたミニフェスは、錦城祭で企画を出す予定だった部活動を中心に、大いに盛り上がった。

元錦城祭実行委員長の渡邊沙羅さん(3A)は「感染対策による制限は多くありましたが、錦城祭で行おうとしていたことができたのでとても嬉しいです」と笑顔で話した。

実行委員の思い届かず

毎年1月中旬に行われる合唱祭も中止となった。元合唱祭実行委員長の太田勝己さん(3C)をはじめ、実行委員は何度も案を考案を目標していたが、新型コロナウイルスの感染者数は減少せず、インフルエンザとの同時流行という懸念もあり、10月に中止が決定した。

森谷拓未さん(2L)は「開催できなかったのは残念ですが、この状況下では仕方ないと思います」と話す。濱田真帆さん(3K)は、「生徒合唱はもちろん、他にも教職員の合唱コーナーなど楽しめるところが合唱祭には沢山あったので、本当に残念です」と心境を語った。

関西方面へ変更後も中止が決定

57回生の修学旅行は、錦城史上初の中止となった。当初は例年通り2月に蔵王でのスキー旅行が予定されていたが、感染拡大を受けて10月に行き先を関西方面に変更。日程も4泊5日から3泊4日に短縮された。しかし、さらなる感染拡大や宿泊地である大阪での流行を鑑みて、1月に中止が発表された。

山崎琉花さん(3H)は「中止発表まで準備を進めていた実行委員の皆さんや先生方に感謝の気持ちでいっぱいです」と話す。「一度きりの高校の修学旅行がなくなり友達と思い出作りができなくなって、悲しかったです」と語った。

1年を振り返って

昨年度は新型コロナウイルスの影響で生活が大きく変化した。様々な行事が中止になり、部活もたびたび停止に。いつもと違う、不自由の多い日々を過ごすことを余儀なくされた。

しかしその中でも、ミニフェスなどの代替行事の開催に向け尽力したり、感染対策をした上で工夫して部活動に臨んだり、どんな環境でも諦めない錦城生の姿があった。錦城高校新聞はこれからも、そんな錦城生を追っていく。

通常なら年4回 調理実習をしていました

「ステイホームで外食ができないからこそ、自分たちの生活に目が向かったと思います。おうちの方に頼ってばかりではなく、自主的に考えてほしいです」と2人は話した。家庭科室前に調理実習の代わりに行った絵本作成の先生と若本恵子先生に話を聞いた。「授業中はマスクをして見に行ってみよう。(卵・紅